

## 釧路市立中央小学校 フィールド学習 実施内容

### 《概要》

[日程] 2020年8月21日(金)

[参加者] 5年生児童32名

[講師・案内] 環境省 瀧口自然保護官、高橋自然保護官補佐  
山本・安保・安田(公益財団法人 北海道環境財団)

[フィールド学習の目的]

- ・湿原での体験活動を通して、身近な環境との違いを体感し、湿原への関心と理解を深める。

[実施プログラムの概要]

- 9:30 温根内ビジターセンター駐車場到着
- 9:40 温根内ビジターセンターでの展示物閲覧・レクチャー
- 10:15 釧路湿原右岸堤防沿いの湿原での活動
- 10:45 右岸堤防沿いの湿原景観の観察(バス車窓より)
- 11:50 トイレ休憩後、温根内ビジターセンター駐車場出発

### 《実施内容(記録)》

#### ■オリエンテーション(10:00)

##### ○挨拶(環境省 瀧口自然保護官)

皆さんが今いる場所は日本で一番広い湿原の釧路湿原の一部分にいる。普段、環境省のレンジャーとして、その湿原を守る仕事をしている。今日は、釧路湿原がどんなところか少しでも知ってもらいたいと思う。わからないところはスタッフに聞いてもらいたい。(スタッフ紹介)



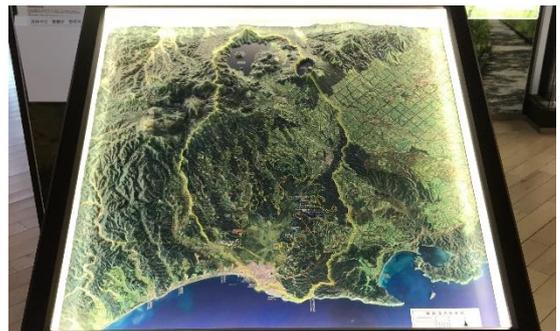
#### ■温根内ビジターセンターでの展示物閲覧・レクチャー

(環境省 瀧口自然保護官、北海道環境財団 山本、安田)

3グループに分かれて、それぞれ展示を見ながら解説を行った。

(ジオラマ地図)

小学校の場所、現在私たちがいる場所、これから向かう湿原の場所などを確認した。また、湿原を潤す水はとても広い範囲に降った雨が集まってきていることを地図上で確認した。



(釧路湿原の植生パネル)

湿原にはいくつかの種類があり、それぞれに特徴的な草花や景観が見られること、湿原の地面は土ではなく植物が腐らずに溜まった泥炭が体積しており、その深さは4メートル程になること、この後に訪問する場所は、釧路湿原の中でも限られた場所で見られる湿原であることなどを、展示物を見ながら確認した。

(ヤチボウズ、ヤチマナコのパネル)

湿原で見られる特徴的なものの1つとして、ヤチボウズやヤチマナコについて紹介し、その出来方などをパネルで確認した。



### ■釧路湿原右岸堤防沿いの湿原での活動 (10:15)

#### ○フィールドワーク前のお話 (環境省 瀧口自然保護官)

これから、目の前に見える小川を越えて湿原の中を歩いてもらう。先ほどビジターセンターの中で見たヤチボウズ、植物の植物、自分がいる場所などを思い出しながら歩いてもらいたい。どんな植物がいるか、どんな生き物がいるか、いろいろなところを見まわしながら歩いてもらいたい。



#### ○3 グループに分かれて湿原の体感

右岸堤防横の小さな水の流れを越え、1列に並んで湿原の中に分け入り、地面(泥炭)が揺れる感覚を体感した後、泥炭を手に取り、土とは違い繊維が絡まっていることなどを確認した。また、食虫植物であるモウセンゴケの観察、ハーブのようなヤチヤナギの匂いをかぐ、耳をすまして聞こえる音を感じるなどの活動を行った。また、5年生理科の単元で学習する植物が成長するために必要な要素を確認し、この湿原には他から流れ込んでくる水や栄養がほとんどなく、栄養がとても乏しいために背丈が高い植物が少ないこと、この環境でも生きていける特徴的な植物が多く見られること、栄養を補うために食虫植物なども見られる



ことなどを解説した。こうした湿原は釧路湿原の中でも見られる場所はとて少なく、出来るまでに非常に長い時間がかかっているため、法律でも守られており、今日の体験は特別な許可をもらったものであることを覚えておいてもらいたいことを伝えた。



#### ■右岸堤防沿いの湿原景観の観察（バス車窓より）（10:45）

この道路（右岸堤防）が湿原の中心部を通って東側に向かっていること、栄養が多いところには湿原の環境でも生きることができる木や背丈の高い草（ヨシ）が生えていること、そうした環境に生きてきたタンチョウなども子育てしており、この環境が多くの生き物にとっても大切なこと、湿原越しに釧路の街並みも見え、広大な釧路湿原が街にとっても近い場所にあることなどの解説を行った。



#### ■トイレ休憩後、温根内ビジターセンター駐車場出発（11:50）